

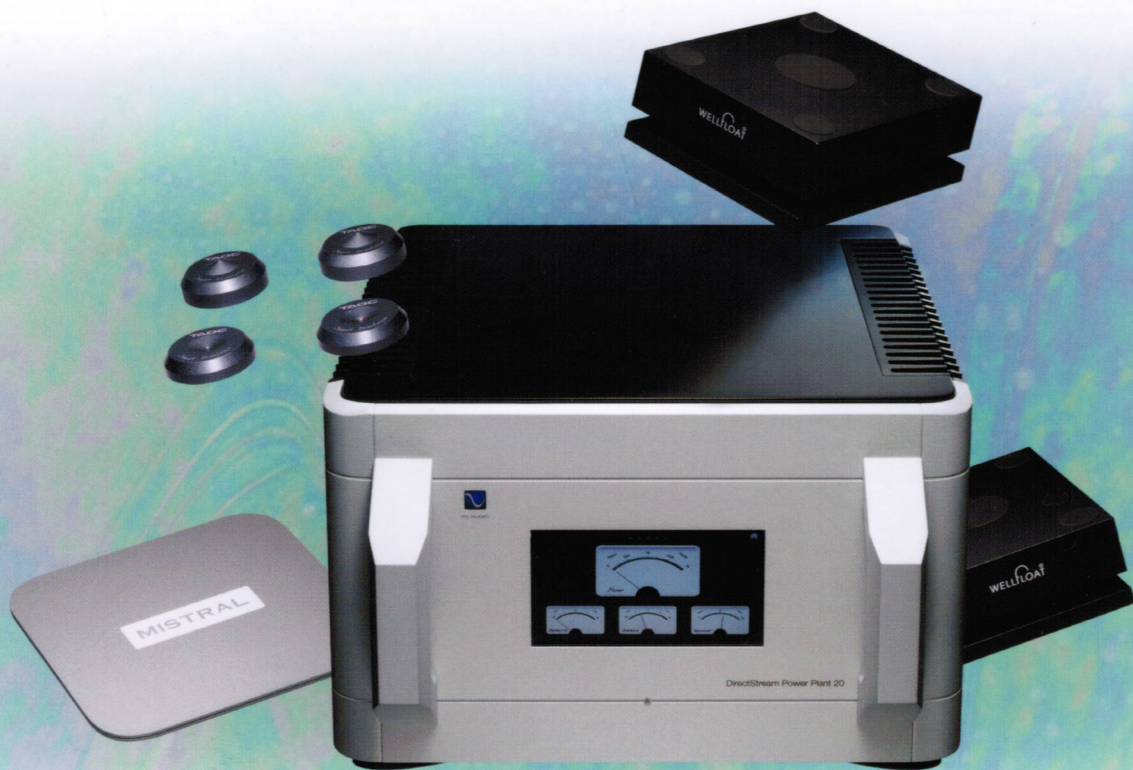
季刊・オーディオ アクセサリー

Audio Accessory

クオリティアップを目指す全てのオーディオファンへ

総力特集 グレードアッププラン徹底検証

「新世代」プリメインアンプ スクランブルテスト



重点アクセサリー研究「いまが買い時、いまが替え時」
スピーカーケーブル進化論

特別企画
プロが選ぶ
マイベストケーブル



特別付録

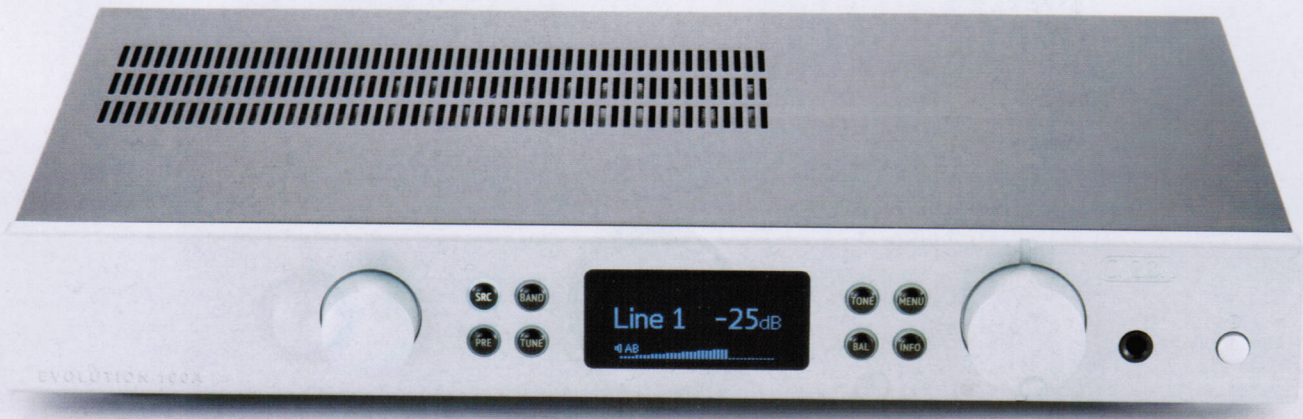
ユニバーサルミュージック
MQA-CD クラシック
SAMPLER



AA誌の注目記事は
WEBでも楽しめます!

2018 SUMMER

169

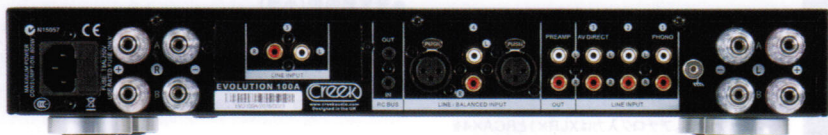


CREEK EVOLUTION 100A

¥370,000(税別)

Profile

最新の低インピーダンス・スピーカーを駆動するため、新開発のダーリントン・トランジスターのパワー部を備えたプリメインアンプの第二弾。前作Evolution 5350SEの後継機として登場したもので、さらにMM/MCフォノカードやAMBITチューナー、RUBY DAC、ブルートゥース、FMチューナーモジュールが搭載可能となった。音質と発展性を高い次元で集約させた、新世代にふさわしい、同社の中核プリメインアンプである。(編集部)



本機のリア部。プリ入力はRCAが5系統のほか、パワー部入力が1系統(RCA or XLRの選択可)装備。試聴時にはMMフォノカードのオプション(¥28,000/税別)を搭載した

Specification

- 出力:110W+110W/8Ω、170W+170W/4Ω●最大供給電流:±26A/0.5Ω,50mS●歪率(THD):<0.002% 2/3 rated power 8Ω●周波数特性:10Hz~100kHz(±2dB/Line)、10Hz~50kHz(±2dB/Blanced)●クロストーク:-80dB●消費電力:最大 500W、待機 20W●サイズ:430W×60H×280Dmm●質量:9kg
- 取り扱い:(株)ハイ・ファイ・ジャパン

●音質傾向表(小原)

音色	クール	ウォーム
音楽の表現力	繊細志向	迫力志向
エネルギーバランス	軽快	重厚
空間の表現性	音場重視	音像重視

●音質傾向表(生形)

音色	クール	ウォーム
音楽の表現力	繊細志向	迫力志向
エネルギーバランス	軽快	重厚
空間の表現性	音場重視	音像重視

音質と発展性を高い次元で集約した新世代機

●スピーカー・スクランブル

1 TAD
(総合評価)



アナログの再現性
★★★

2 B&W
★★★★

声の音像はやや大きめで、ベースにピタリ寄り添う。チョンのヴァイオリンは力が漲る。

3 Sonusfaber
★★★★

チョンの演奏には気品、高貴さを感じる。井筒は太めの再現で、ベースのトーンが強靱。

●総合評価(小原)
響きや空間表現が卓越するスケール感や実体感も魅力

中央に大きめのディスプレイを配置し、その左右に各種ファンクションスイッチを備えたモデル。井筒の冒頭のベースソロはメロディックに響き、スタジオの広さが実感できるリバーブ感。もう少し量感を引き縮めたいところだが、やや大きめに定位する声の実体感、ピアノのまろやかさも合わせると、バランスは悪くない。チョンではもう少し奥行き再現が出ればベター。ヴァイオリンの音色やオーケストラのスケール感を感じられる。TADをやや持て余し気味に思えた。ここではB&Wが鳴らしやすい対象だろう。

●電源ケーブルでグレードアップ

1 SAEC
★★★★★

パワーと情報量がアップし、音像や音場の解像度が向上。骨太かつ見通しのよいサウンドへ。

2 KRYPTON
★★★★

ピアノに艶が出るとともに、ベースの量感に力強さとスピード感が生まれ、快達な聴き心地へ。

3 Zonotone
★★★★★

音楽表現が立体化し、躍動感ある余韻を描く。低域の深みが増し、ヴォーカルも明確化する。

4 AET
★★★★★

音の粒立ちが向上し、奥行きが見通しが深化。スピーディでスッキリとしたサウンドへ。

●総合評価(生形)
バイアンプ駆動もお薦め高密度なサウンドを描く

バイアンプ駆動による力強い音楽表現を味わえるアンプ。音像重視の身の詰まった密度の高いサウンドを描き出す。描かれる音像は立体的で、なおかつ音がしっかりと前に出てくる勢いがある。音色はナチュラルで、中低域に心地よい重心を持つ。音場表現は、隅々まで均質に描くのではなく、手の届く範囲のみを明瞭にピックアップし箱庭的な再生が楽しめる。バイアンプ駆動できるのが魅力で、同接続では、ユニットごとの音の分離が良く、それぞれの帯域描写がよくほごされた、躍動感のある音を楽しませてくれる。

ブリテイッシュサウンドを 忠実に引き継ぐ老舗ブランド

Text by 井上千岳 *Chitake Inoue* / Photo by 田代法生



CREEK EVOLUTION 100CD

CDプレーヤー
¥290,000 (税別)

EVOLUTION 100A

プリアンプ
¥370,000 (税別)

Specifications

<Evolution 100CD> ●デジタル入力：RCA同軸×2 (192kHz / 24 Bit)、光TOS (192kHz / 24 Bit)、USB 2×1 (192kHz / 24 Bit) ●SN比：>110dB
●デジタルフィルター：光デジタルフィルター ●出力インピーダンス：47Ω ●アナログ出力：RCA 2.0V RMS、XLR 4.0V RMS ●CDメカ：CD slot-loader ●DAC：Wolfson WM8742×2 ●消費電力：20W ●サイズ：430W×60H×280Dmm ●質量：5.5kg ●仕上げ：Silver、Black (受注生産 + ¥15,000)
<Evolution 100A> ●出力：110W / ch (8Ω)、170W / ch (4Ω) ●最大供給電流：±26A / 0.5Ω、50ms ●歪み (THD)：<0.002% 2/3 rated power 8Ω ●周波数特性：Line 10Hz~100kHz ±2dB、Balanced 10Hz~50kHz ±2dB ●利得：Line ×46 (33.3dB)、Balanced ×22.5 (27.0dB) ●入力感度：410mV ●クロストーク：-80dB at 1kHz ●SN比：>102dB ●セパレーション：>80dB@1kHz ●消費電力：最大 500W、待機 20W ●サイズ：430W×60H×280Dmm ●質量：9kg ●仕上げ：Silver、Black (受注生産 + ¥15,000)

イギリスの老舗ブランドである CREEK（クリーク）のデビューモデルは、コストパフォーマンスの高さで注目を集めたプリメインアンプ「4040」であった。現在の主軸である「EVOLUTION」シリーズは、その 4040 の開発以来 同ブランドがポリシーとしてきた「ローコスト・ハイパフォーマンス」を引き継ぐものである。今回は、EVOLUTION 50 と EVOLUTION 100 の 2 つのシリーズの CD プレーヤーとプリメインアンプの魅力を変えて探してみたい。合わせて、同シリーズのオプションであるフォノカードの新製品をご紹介します。



EVOLUTION 50CD

CDプレーヤー
¥203,000 (税別)

EVOLUTION 50A

プリメインアンプ
¥167,000 (税別)

Specifications

<Evolution 50CD> ●デジタル入力：RCA同軸×2 (192kHz / 24 Bit)、光TOS (192kHz / 24 Bit)、USB 2×1 (192kHz / 24 Bit) ●SN比：>110dB ●出力インピーダンス：47Ω ●アナログ出力：RCA 2.0V RMS、XLR 4.0V RMS ●メカ：CD slot-loader ●DAC：Wolfson WM8742×2 ●消費電力：20W ●サイズ：430W×60H×280Dmm ●質量：5.5kg ●仕上げ：Silver、Black (受注生産 +¥15,000)
<Evolution 50A> ●出力：55W / ch (8Ω)、85W / ch (4Ω) ●最大供給電流：±26A/1Ω、50mS ●歪み：< 0.005% 2/3 rated power 8Ω ●周波数特性：Line 10Hz~100kHz ±2dB、Balanced 10Hz~50kHz ±2dB ●利得：Line ×48(33.3dB)、Balanced ×22.5 (27.0dB) ●入力感度：410mV ●クロストーク：-80dB at 1kHz ●SN比：>102dB ●セパレーション：>80dB@1kHz ●消費電力：最大 350W、待機 10W ●サイズ：430W×60H×280Dmm ●質量：7.5kg ●仕上げ：Silver、Black (受注生産 +¥15,000) ●取り扱い：(株) ハイ・ファイ・ジャパン

英国スタイルの草分けであり 代表的なブランド

薄型のコンパクトなサイズとシンプルで高度なデザイン、手頃な価格そして高度な装備と音質。リーズナブル・モデルの代名詞とも言える英国スタイルの、草分けであり代表的なブランドがクリークである。こういう製品は少なくなってしまうが、実際のところその実力はどのようなものなのか。フォノカードもリファインされたところで、スピーカーとのマッチングを考えながら徹底的に聴いてみたい。クリークのラインアップは、現在EVOLUTION 50および100という2つのシリーズで形成されている。いずれもCDプレーヤーとプリメインアンプが中心になる。そこで50シリーズにはブックシエルフ型2ウェイとしてエラックのBS243、100シリーズにはモニターオーディオのPLATINUM 200を組み合わせてみることにした。

●EVOLUTION 50C D/50A

屈託のないリラックスした 出方が聴き手をほっとさせる

まず50シリーズだが、こうい

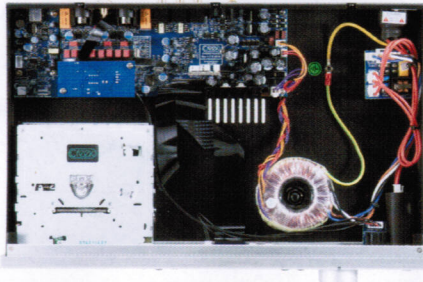
うシンプルでコンパクトなシステムから例えばパツハの無伴奏ヴァイオリン・パルティータなどが流れてくるのは、実に心地好いものだ。作品の性質上強大なパワーは必要ないが、ディテールの微細なダイナミズムはきめ細かく捉えていなければならぬ。むしろそういう部分にこそ彫りの深さが要求されるのだし、ハイパワーではなくとも瞬時の立ち上がりの大きさは欠かせないのである。実際ここで聴いているのはバロック・ヴァイオリンなのだが、モダン楽器以上に粘りや艶といった要素が大きい。かえってそれだけ難しいとも言えるわけだが、それをこのシステムは生き生きと鳴らしてみせる。無理に駆動しているという苦しさもなく、どこか楽しそうな鳴り方である。ヴァイオリンの音色は艶やかで肉質感が高く、音楽の起伏が意外なほど大きい。さすがに屈指の作品だが、それとシステムのマッチングがぴったりなのである。ヴォーカルもいわば定番のようなソースだが、やはり屈託のないリラックスした出方が聴く方をほっとさせる。音に不要なテンションがかからず、表情が穏和でしかも細かい。バックはピアノとウッドベースだが、その2台も肩の力が抜けてしかも演奏を楽しんでいる



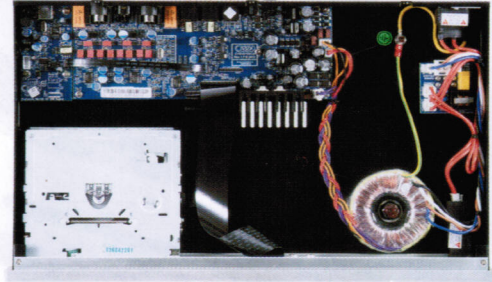
EVOLUTION 100CD はアナログ/デジタル出力は 50A と同じ構成だが、アナログ出力の RCA 端子は、50A よりもグレードの高いものが用いられている。デジタル入力 は 5 系統 (USB B タイプ、RCA 同軸 × 2、光 TOS × 2)



EVOLUTION 50CD は RCA と XLR のアナログ出力を持つ。デジタル出力は RCA 同軸と光 TOS。USB B タイプを含め 5 系統のデジタル入力、192kHz / 24bit に対応



100CD の内部。ボリュームノブを装備しているため、50A とは若干内部の構成が異なっている



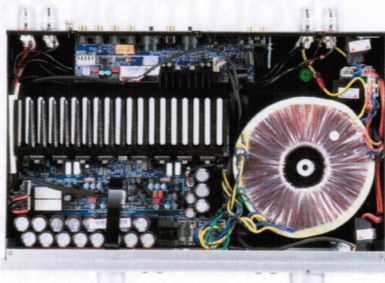
50CD のドライブメカはスロットインタイプ。リモコンで操作できるボリュームを装備する



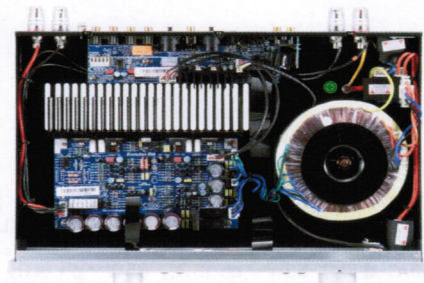
EVOLUTION 100A は 50A と同じく標準で 5 系統のアナログ入力 (RCA × 5、XLR × 1、INPUT 4 は RCA と XLR 兼用) を装備。スピーカー出力を 2 系統持ち、バイワイヤリング接続を容易に行うことができる



EVOLUTION 50A は標準で 5 系統のアナログ入力を持つ。スピーカー出力は 1 系統。INPUT 5 は、オプションの DAC カードを取りつけることでデジタル入力として使用できる



100A の内部。電源トランスは、50A よりも大型のものを搭載している



50A の内部。アナログディスクには内部にオプションのフォノカードを装着することで対応する

雰囲気がよく伝わってくる。こういうソースはこういう音で聴きたいものだと思ってしまうのである。

一方でフュージョンなどを聴くと、このアンプが驚くほど強靱な駆動力を備えているのが分かる。瞬発力が高いのである。ベースや打ち込みのパーカッションが炸裂するような弾け方をする。低域も非常に低いところまで入っているが、それがまったく圧縮されずストレートに出てくる。スピーカーを完全に把握しきっているのが分かる出方で、外観や定格だけからでは想像のつかないパワーである。

●EVOLUTION 100C D/100A

見かけによらない力強さ 駆動力にまったく不安がない

続いて100シリーズである。こちらはスピーカーにフロア型を組み合わせたが、パワーの余裕とすべきなのか駆動力にまったく不安がなく、安定した音調をしっかりと保って密度が高い。そしてレンジが広いのだ。フロア型のウーファーからツイーターまで本機では苦もなく把握しているのを見ると、見かけによらない力強さを感じないわけにはいかない。それがよく顕われているのは、

例えば辻井信行の『英雄ポロネーズ』。決して大音量で弾きまくった演奏ではないが、低音部には独特の厚みがある。それでいて基本的に比較的小さいタッチで、きめ細かな表現が行われている。この演奏の特質を、本機では着実に描いて過不足がない。中間部の左手のオクターブがなんとも軽々と流れているが、こういう再現こそ演奏が生きていると言えそうだ。

ジャズは切れがよく、音数が豊富で音楽が多彩だ。ひとつには楽器それぞれの音色が濁りなく描き分けられているせいかもしれない。トロンボーンの手華やかさ、ピアノのソリッドな明快さ、ウッドベースの洗い重量感など彩りが鮮やかなのだ。ドラムの隣発力も申し分ない。スピードも速く、充実感たっぷりである。

その他オーケストラは言うまでもなく壮麗で鮮烈だ。そして室内楽の瑞々しい魅力も忘れ難い。

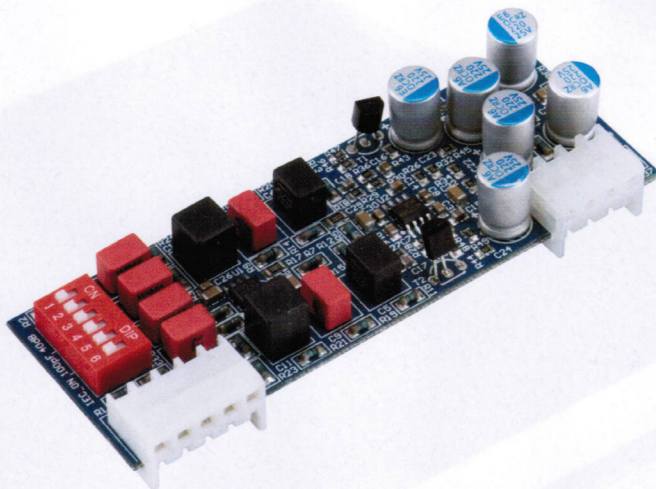
●SEQUEL MK3

S/Nがよくレンジも広い 最新フォノカード

さて新たに発売されたフォノカードSEQUEL MK3を、この100Aに追加して聴いてみたい。MM/MCの両方に対応し、

ゲインと負荷容量、低域のロールオフがそれぞれ2段階に切り換えられる。今回はオーディオテクニカのVM型カートリッジVM750SHを組み合わせた。バロックはS/Nがよくレンジも広い。レスポンスのバランスがちょうどよく、解像度にも優れた再現だ。一音一音が丁寧に拾い上げられ、出方が緻密なのである。ピアノもクリアなタッチが透明

感十分に引き出され、広々とした響きで流麗に再現される。何より音色にくせがなく、高域の端まで刺のないのが大きく作用している。コーラスは音数の多いソースだが、混濁や破綻なく再現する。解像度がしっかりしているのだ。女声のリアリティなど大変魅惑的なのに驚かされるくらいである。いまのアナログ・ブームにもぴったりのシステムと言っている。



SEQUEL MK3

フォノカード
¥35,000(税別)

これまでMM対応のSEQUEL 40 MK2とSEQUEL 48 MK2、MC対応のSEQUEL 54 MK2の3種類のフォノカードがオプションとして用意されていたが、新製品のSEQUEL MK3はそれらを統合したモデルである。ディップスイッチの切り換えで、ゲインは40dBと50dB、入力キャパシタンスを100pFと200pF、イコライザーの低域周波数補正をEQ/RIAAとIEC/7950 μ sからそれぞれ選択することができる。

Specifications

●入力インピーダンス: 47k Ω ●利得(切り換え): 40dB($\times 100$) / カートリッジ出力 2.5~5.0mV or 50dB($\times 316$) / カートリッジ出力 0.9~2.5mV ●周波数特性: 10Hz~20kHz ± 0.5 dB ●低周波数の補正(切り換え): EQ / RIAA(フラット) or IEC / 7950 μ s (20Hz ロールオフ) ●入力キャパシタンス(切り換え): 100pF or 200pF ●SN比: >80dB / 利得40dB or >70dB / 利得50dB ●負荷の利得: 15dB ●歪み(THD): < 0.005%

無理に駆動しているという苦しさがなくどこか楽しそうな鳴り方である

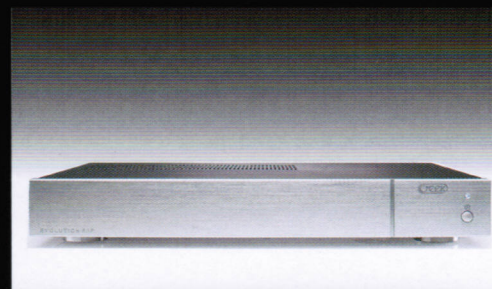
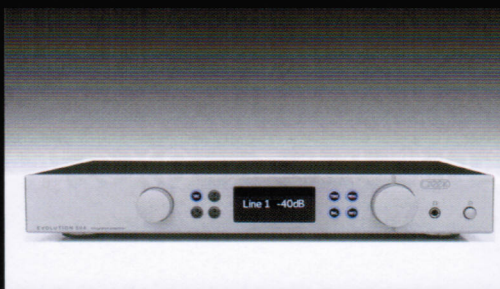
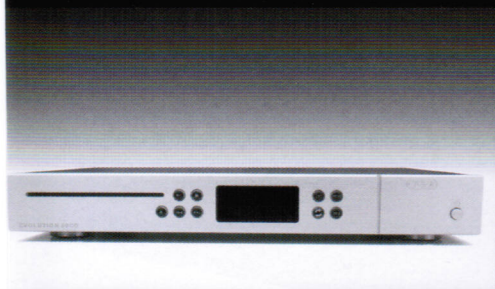


EVOLUTIONシリーズ共通のリモコン。CDプレーヤー、プリアンプとともにこのリモコンで操作できる



EVOLUTION SERIES

from entry level to high-end amplifiers



- Evolution 50CD DAC & CD Player ¥203,000/税別
- Evolution 100CD DAC/CD/Pre-amp ¥290,000/税別
- Evolution 50A Integrated Amplifier 55W 8Ω AB級 ¥167,000/税別
- Evolution 100A Integrated Amplifier 110W 8Ω G級 ¥370,000/税別
- Evolution 50P Power Amplifier 55W 8Ω AB級 ¥150,000/税別
- Evolution 100P Power Amplifier 110W 8Ω G級 ¥290,000/税別

Creek Audio

Designed and Engineered in the UK

株式会社ハイ・ファイ・ジャパン 〒102-0075 東京都千代田区三番町1-8 tel: 03-3288-5231 fax: 03-3288-5233

www.creekaudio.com / www.hifijapan.co.jp